

「貧困者の足を引っ張っているのが貧困者」という事実衝撃

国際医療福祉大学大学院
医療福祉学研究科 保健医療学専攻
学籍番号：21S1011
氏名：入江沙衣子

先生は常に前向きで私にはとてもまぶしく感じました。
もし自分が盲目だったら、先生のように前向きに捉えることが出来たか？と聞かれると答えはNOだったと思います。

先生のように盲目の方が通う学校から普通高へと飛び出し、一般学生との交流を図り青春を過ごせたか？と聞かれたとして、私ならこれも答えはNOだったと思います。

ましてや今まで外の世界を見ており、色鮮やかな世界が見えている感覚を知っている状態からの失明となると、かなりの衝撃だったことと思いますが先生はそれに負けず夢を追い続けて弁護士となり、本当に素晴らしいです。私ならリスクを考えてしまい無難な選択、無理のない生活で生きてしまいそうです。

弁護士を目指すきっかけは、失明してから夢を持てた。と仰っていてとてもびっくり致しました。失明してから弁護士を目指す事は想像を絶するほどの大変さです。現に様々な苦勞がたくさんあった中で弁護士になられて本当に尊敬いたします。

弁護士になられた先生ですが、医療事故、労災、貧困等、様々な案件に携わられてきた中、お話の中に貧困問題の足を引っ張っているのは貧困者である。貧困問題で徹底的に攻撃してくる半分の人は貧困者であり、日本ではなかなか克服できない大きい要素である。

貧困問題は、あくまで人権問題であり、一部の問題ではない。社会問題にしていく事は非常に難しい事である。貧困という枠組みを脱却しなければならない。というお話があり、非常に興味深い内容でした。

特に貧困者の足を引っ張っているのが貧困者だという事実衝撃を受けました。こちらについては自分の方でも勉強してみたいと思います。

たくさん貴重なお話が聞けた中で、先生の人生観をお聞きしてとても自分自身前向きになりました。

現在私は大きな夢はありませんが小さな目標はいくつかあります。小さな目標にむかって少しずつ頑張りながら、いずれ大きな夢を見つけ、それに向かって先生のように走れたらいいなと思っています。この度は貴重なご講演ありがとうございました。